

「梅津神楽」16演目を奉納

1/19

【県指定無形民俗文化財】・五穀豊穰、地域の安全を祈願

梅津神楽保存会は、県の無形民俗文化財に指定されている「梅津神楽」を接岨峡温泉会館で奉納しました。多くの町民や神楽ファンが訪れる中、夕方から深夜にかけて16演目が披露され、普段は静かな山あいの集落に笛・太鼓、にぎやかな笑い声や掛け声が響き渡りました。

地元の女の子3人で舞った「八幡の舞^{はちまん}」では縁起物の矢を受け取ろうとする観客で盛り上がりました。佐藤町長も4演目を舞い「神楽の活気は地域を元気にする。地域をPRする絶好の機会です、魅力を感じてもらえたら」と笑顔でした。



八幡の舞を披露(関連記事は最終ページ「沙代のつづやき」)

1/12

山岳救助合同訓練で救助技術を習得

本町消防団と金谷消防署川根北分遣所が連携体制を確認



川根北分遣所員の指導で救助技術を学びました

町道水川藤川線の斜面で、金谷消防署川根北分遣所と本町消防団第4分団の約40人が参加して山岳救助合同訓練を実施しました。

川根北分遣所は広大な山間地を管轄するため、「要救助者の意識レベルが低く緊急を要する場合」など、緊急事案発生時には消防隊員と本町消防団員が連携して救助に当たることがあります。

松野分遣所長は「有事に備え地元消防団と連携し、日ごろから救助技術を確認することが大切」と話しました。その他の分団も3月末までに同訓練を実施します。

「回覧板は手渡しで」高齢者を見守ろう

2/1

平田厚さんは「一人一人が地域を支え、担い手になろう」と呼び掛けました

川根本町社会福祉協議会は、平成24年度モデル地区懇談会「ひとりでも安心して暮らせる地域づくり」を徳山コミュニティ防災センターで開催しました。懇談会には藤川・徳山・水川地区の町民約50人が出席し、静岡福祉文化実践研究所の平田厚さんの指導で「本町で思うこと、気が付いたこと」を何でも書き出すグループワークを行い、7つの班ごとに発表しました。

発表では「回覧板を手渡しして声を掛けるなど、高齢者の孤立を防ぐための見守り体制を確立しよう」などの提案がなされました。



地域福祉について活発な意見が出されました

自分らしく生きていくために

1/30

エンディングノートを活用し人生を見つめ直すことを提案

本町地域包括支援センターは、平成24年度川根本町権利擁護セミナーを文化会館で開催しました。大阪市の行政書士で社会人落語家でもある生島清身さんが講師を務め、映画や震災で注目されているエンディングノートを取り上げ、落語を交えて約250人の参加者が聴講しました。

生島さんは「エンディングノートは万が一に備え、自分の意志や希望を書き留めておくノートのことで、家族や周囲の人へ思いを伝える手段ばかりではなく、前向きに自分らしく生きていくための人生の設計図」と説明しました。



落語を交えてエンディングノートに理解を深めました

1/24

力を抜いて糸に引っ張られる感覚を体感

舞踏団体「大駱駝艦」の田村一行さんによる舞踏ワークショップ



田村一行さんの表現方法を見よう見まねで体験(本川根中)

「糸に引っ張られる感覚を持って」「友達に念力で操られているイメージで」と田村一行さんの指示で、力を入れずに体を動かす独特の舞踏の表現方法を体感する本川根中学校の生徒たち。

町民に舞踏の魅力や表現方法を伝えようと舞踏団体「大駱駝艦」の田村一行さんが本川根中のほか、中川根第一小、みどりの丘、文化会館で舞踏ワークショップを開催しました。

舞踏の表現方法を初めて体験する本川根中の生徒たちは、戸惑いを見せながらも、次第に笑顔を見せ、独特の世界観を楽しみました。

「お花見大作戦」に最優秀賞！

1/16

本町エコツーリズムネットワークが考案・県主催コンテストで

県が主催した「平成24年度ニューツーリズム商品企画コンテスト」で、県内の観光関係団体や旅行会社から応募があった44点の企画から、本町エコツーリズムネットワークが考案した「お花見大作戦」が最優秀賞を受賞しました。

「お花見大作戦」は、カヤック・接岨湖などの川根本町ならではの観光資源や地元食材、人材を活かしたツアー。高い評価を受けました。

同団体の神東美希さんは「4月初旬に受賞ツアーを企画するので、町民の皆さんにも是非体験して欲しい」と受賞を喜びました。



受賞を喜ぶ関係者(関連記事は11ページ「エコツアー日記」)